
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 411 号

ー環境・農業・食べ物など情報の交流誌ー

2019.07.22 (月) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

<第 45 回 山崎農業研究所総会・記念フォーラムのお知らせ>

記念フォーラム：農福連携・社会と繋げるソーシャルファーム-

7月24日(水) 14:00~17:50 NTC コンサルタンツ(株) 大会議室

◆日時・場所

日時：7月24日(水) 14:00~17:50

場所：NTC コンサルタンツ(株) 大会議室

東京都中野区本町一丁目 32 番 2 号 ハーモニータワー20 階

地下鉄丸ノ内線 中野坂上駅 徒歩 2 分 (出口から)

都営地下鉄大江戸線 中野坂上駅 徒歩 3 分 (出口から)

◆総会

14:00~14:40 会員総会

14:40~15:00 山崎記念農業賞表彰式

◆記念フォーラム 開催日時、プログラム

15:20~15:40 授賞お祝いの言葉

デザイナー 奥村奈央子氏、林よしえ氏

15:40~16:20 受賞者記念講演

「社会の枠組みを超えた農業と福祉の一体化をめざして」

埼玉福興(株) 代表 新井利昌氏

<http://saitamafukko.com/>

埼玉福興 HP:「ソーシャル・ファームとしての埼玉福興」

16:20~17:20 特別講演

「ソーシャルファーム、農福連携、社会的農業」

学習院女子大学講師 中野美季氏

https://www.jstage.jst.go.jp/article/arp/35/Special_Issue/35_274/_pdf/-char/

ja

論文：中野美季・山路永司「イタリア社会的農業の協働ネットワーク」

17：20～17：50 意見交換

18：00～20：00 懇親会（ハーモニータワー2F ケヤキガーデン）

参加申し込み先

TEL：080-2061-4227（山崎農業研究所事務局・益永携帯）

E-Mail：yahiro_mas@docomonet.jp

□ 目 次 □-----

<巻頭言>アフリカの伝統的家族農業への回帰 高木 茂

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.145・146』内容案内

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<編集後記> 農業の伝統回帰

<巻頭言>アフリカの伝統的家族農業への回帰

本メルマガ「電子耕 407号」の巻頭言で「小規模家族農業こそが次世代農業の中核的担い手」というタイトルで家族農業を取り上げた。今年、国連「家族農業の10年」（2019年～2028年）の初年度に当たることから、これまで国際農業開発協力に従事してきた経験を踏まえて、アフリカの貧困削減と開発協力からみた家族農業の位置付けについて考えてみたい。

世界の人口は、今後も増加し続けることが予想されているが、食料生産や食料安全保障の面で脆弱な地域がある。とくにアフリカの穀物の生産性は低く、人口増加に見合う食料の安定供給が危惧されている。このようなところで、2007年～2008年にかけて世界的な穀物価格の高騰が深刻な食料危機を招き、セネガル、ブルキナファソ、コートジボワール、カメルーンなどのアフリカの国で暴動が発生した。それらの多くは都市部における暴動であったが、忘れがちなのが、農村部の小規模家族農家への影響である。

この穀物価格高騰の要因は、穀物生産国の干ばつ、原油価格の上昇、アジアの穀物需要の増加、先進国による穀物のバイオ燃料化などがあげられる。アフリカの食料問題はもはやグローバリゼーションの波に飲み込まれているのである。とくにアフリカでは、穀物はほとんどが食用であることから、穀物価格の高騰は生活を直撃する。さらに近年では、グローバリゼーションの負の影響と

して、自給的農業から商業的農業への移行過程において、家族農家の一部は農地を手放したり、小作あるいは農業労働者になるなど、貧困層の増加とともに貧富の差の拡大が起きている。そのため、国際社会によるアフリカの開発協力では、貧困削減と食料安全保障を重視した農村開発が重要となる。

穀物価格高騰の影響は、都市部と農村部ではどのような違いがあるのだろうか。都市部で食料を購入して生活する住民と、農村部で自給的農業をしている農民では穀物価格の高騰で受ける影響はかなり異なる。例えば、都市部で生活する住民は、トウモロコシやコメ、食用油などを購入する。しかし、価格が上がり、購入できる量が半分になってしまうこともある。この時は、食事の量を減らすことになる。

一方、農村部に住み、さまざまな作物を生産している自給的農業に従事する農民が購入するのは、砂糖、塩、食用油くらいである。また、輸入穀物の価格が高騰しても農家が生産した穀物の販売価格は高くない。そのため、農民は価格高騰の影響はあまり受けない。ただし、農村でも自給的農家に比べ、単一作物に特化して生産している商業的農家は食料を購入せざるを得ないため、穀物価格の変動の影響を直接受ける。また、単一作物の商業的生産には化学肥料や農薬を多く使うことから、原油価格の上昇は化学肥料の値段引き上げにつながり農家収益に影響を及ぼす。

前述のような自給的機能を有する小規模家族農業こそが、アフリカの貧困削減と食料安全保障に大きな役割を果たすであろう。開発途上国の貧困層の4分の3が農村部に住み、全世界の貧困層の43%がアフリカに住むと言われる（国連開発計画 2018）。これに応えるだけの食料供給などのポテンシャルを見込めるのが、小規模家族農業であるかも知れない。その背景には、農業ポテンシャルの高い土地は、既にある程度、開発が進み、農地をこれ以上広げることは困難であるが、小規模家族農業であれば、生産技術やインフラが未発達であるがゆえに、これから、単位面積あたりの生産量を向上させ、労働生産性を改善できる余地が大きいからである。

穀物価格高騰などの国際市場の動向に振り回されずに持続可能な食料生産を行うために、アフリカ農業の大多数を占める家族農業の再評価が必要になってきている。アフリカの家族農業では、農家女性が家庭内における食料生産に関する意思決定権を持つことがあり、このような場合は家族や子供の発育・栄養状態に良好な影響を与える。また、前述のような食料危機の回避策として、輸入穀物の国内生産の振興に加えて、小規模で持続可能な農業による在来穀物の生産・消費の奨励を開発政策で促すことも必要である。

これらは、取りも直さず、アフリカの農家女性が担ってきた自給食料の生産

と家族への食料供給の役割の見直しであり、伝統的家族農業への回帰に他ならないのである。

高木 茂

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.145・146』内容案内

山崎農業研究所所報『耕 No.145・146』の内容を紹介いたします。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

私にとっての山崎先生◎田久保 晃

[第44回研究所総会・第42回山崎記念農業賞]

総会挨拶◎小泉浩郎

所長就任にあたって◎山路永司

第42回山崎記念農業賞贈呈式(神奈川県三浦市・高梨雅人氏)

選考理由報告◎渡邊 博

[総会記念フォーラム：農家直売とその仲間たち

——三浦半島の地産地消に学ぶ]

I 三浦の食に魅せられて◎桑村治良

II 直売を柱とした生産と販売◎高梨雅人

III 日本型農産物直売所の30年◎櫻井清一

[特集1] 小農宣言と日本の農業

小農宣言がめざす社会◎齋藤敏之

小農宣言と百姓の権利——小農と百姓の再評価を巡って◎松平尚也

日本の村と小農◎萬田正治

持続可能な小規模農業こそが地球を冷やす◎吉田太郎

[特集2] 3.11 から 8 年 問われるべきは何か

野良に子どもたちの歓声が響く里山の再生

——持続可能な環境・循環・共生の社会をつくるために◎菅野正寿

福島原発事故から 8 年 「もやい直し」は進んだか◎行友 弥

原発事故の影響を受けた森林から何を取り戻すか? ◎金子信博

原発災害が奪うものと背負わされるもの◎市村高志

3.11 の以前と以後——我々の何がか変わったのか? ◎山下祐介

〈連載〉“生きもの語り”の世界から (16)

科学も物語りの一部なんだ◎宇根 豊

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

農文協、199 ページ、定価 1700 円 (税別)

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

※山崎農研 HP に関連記事を掲載しています。

玉川上水の奇跡「ひとくい川」(第 3 話) 連載 安富六郎 著

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No3.pdf 第 3 話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No2.pdf 第 2 話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No1.pdf 第 1 話

<編集後記> 農業の伝統回帰

今年の山崎記念農業賞は、埼玉県の埼玉福興さんに授与される。埼玉福興さんは「農福連携」のうごきを牽引する団体のひとつ。ここ数年、農福連携が注目を集めており、そこでのポイントは働きたいという障がい者たちと労働力不足に悩む農業側とのマッチングである。

しかし考えてみれば、農業はついこの間まで、家族全員がかかわるものであった。家族のなかには、子どもも老人もはいる。そこでの能力も多様であって、それを組み合わせることで——個人の家だけでなく地域の他の家もふくめて——経営を成り立たせていた。

だから、農福連携はある意味、農業のもともとのかたちを新しい発想で組み立て直すという意味があるのではないかとも思っている。表彰状にはこう書かれている。

「その活動は、さまざまな関係性の中で営まれるソーシャルファーム・社会的企業のモデルとなるとともに、私たちに障がいとは何か共に生きるとは何かという問いへの豊かな示唆を与えてくれるものです。」

表彰式が行なわれる7月24日は、記念フォーラムも開催される。テーマは「農福連携・社会と繋げるソーシャル・ファーム」

たくさんの方々の参加をお待ちしております。

2019年07月19日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』
(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの方々の書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 —グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：囲炉裏暖炉のある家 tortoise+lotus studio 「書評『自給再考』

<http://iroridanro.net/?p=15533>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

http://www.csj.jp/learned-society/check/new_but/jisx0208-sjis.html

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 412 号の締め切りは 07 月 29 日、発行は 08 月 01 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 411 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2019.07.19（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****